

腰痛疾患の柔道整復術適応に関する教材開発

学校法人木島学園 北信越柔整専門学校 准教授 川崎悠貴

1. 目的

本校では創立以来45年間、腰痛症に柔道整復師が日常頻繁に遭遇することから、十分な鑑別能力と施術適応や手術適応を教授すべきと考え、学生教育においての重要課題として取り入れてきた。特に外傷性の腰痛症を着実に把握する能力すなわち、評価法や神経学的・整形外科的検査法の習熟と臨床能力の向上の一助となる実践的かつ質の高い柔道整復師の育成を行うことを目的とした。

2. 方法

- ① 特異的腰痛症を10カテゴリーに分類した腰痛症テキストを作成し、それを基に講義および実技を90分1コマ35回実施した。
- ② 全35回10カテゴリーの講義終了後、腰痛に関する知識や理解度を評価するため穴埋め式筆記試験およびケーススタディやX線およびMRI読影など鑑別法を重視した臨床実地問題試験を実施した。
- ③ 筆記試験後、1班5～7人編成で6グループに分け、口述形式試験および検査法実技試験を実施した。
- ④ 口述形式試験および検査法実技試験の後に、再び臨床実地問題試験を実施した。

対象者は31名であった。

テキスト内容

外傷性腰痛症、退行変性腰痛症、先天性腰痛症、姿勢・生活環境による腰痛症、感染性腰痛症、全身炎症性腰痛症、腫瘍性腰痛症、代謝性腰痛症、外因性腰痛症、心因性腰痛症の10カテゴリーに分類した。

腰痛症テキストの目次は

急性腰痛症

- ① 腰椎椎間板ヘルニア ② 椎体圧迫骨折 ③ 椎間関節症 ④ 筋・筋膜性腰痛症 ⑤ 棘間靭帯部分損傷

慢性腰痛症

1. 外傷性腰痛症

- ① 横突起骨折 ② 棘突起骨折 ③ 椎弓骨折 ④ 椎体圧迫骨折

2. 退行変性腰痛症

- ① 腰椎椎間板症 ② 変形性腰椎症 ③ 脊柱分離症 ④ 脊柱分離迂り症 ⑤ 脊椎変性迂り症 ⑥ 腰部脊柱管狭窄症 ⑦ 腰椎椎間板ヘルニア ⑧ シュモール結節

3. 先天性腰椎症

- ① 先天性側弯症 ② 二分脊椎 ③ 移行椎

4. 姿勢・生活環境による腰痛症

- ① 脊柱側弯症 ② 股関節疾患 ③ 作業中の姿勢による急性腰痛症 ④ 慢性疲労による筋肉痛

5. 感染性腰痛症

- ① 化膿性疾患 ② 結核性脊椎炎

6. 全身性炎症

- ① 関節リウマチ ② 強直性脊椎炎

7. 腫瘍性腰痛症

1) 脊椎腫瘍

原発性脊椎腫瘍：良性腫瘍・悪性腫瘍

2) 転移性脊椎腫瘍

- ① 硬膜内髄外腫瘍 ② 硬膜外腫瘍 ③ 硬膜内（髄内）腫瘍

8. 代謝性腰椎症

- ① 骨粗鬆症 ② 透析性脊椎症

9. 外因性腰痛症（腰部以外の臓器疾患）

- ① 腹部臓器疾患 ② 腎泌尿器系疾患 ③ 婦人科疾患 ④ 血管疾患

10. 心因性腰痛症

講義および実技内容としては

- ① 外傷性腰痛症の病態理解

- ② 臨床推論

- ③ 評価法・スクリーニング

Red Flag（危険信号）の抽出

発生機序や好発部位からの疾患スクリーニング

疾患別による圧痛の出現部位や運動時痛・可動域制限の方向

- ④ 検査法

横突起骨折：横突起の圧痛、Payr 徴候

棘突起骨折：棘突起の圧痛

椎弓骨折：腰椎の伸展・回旋時痛と運動制限

椎体圧迫骨折：棘突起の圧痛・叩打痛、带状痛

- ⑤ 鑑別

- ⑥ X線およびMRI読影法

- ⑦ 保存療法

- ⑧ 施術適応

⑨ 手術適応
などを行った。

口述形式の試験では、教員に指定された疾患に関する病態、発生機序、症状、疼痛の出現部位、検査法実技、鑑別疾患、保存療法、手術療法などに関する口頭説明を複数疾患行い、良好な結果を得た。口述試験事前筆記試験としてテキスト穴埋め式筆記試験を行った。

口述試験事前試験として穴埋め式筆記試験（穴埋め数 504 問）を行った。

総点数 1100 点

平均 999.0 (90.8%)

臨床実地問題内容としては、ケーススタディや X 線および MRI 読影など鑑別法を重視し 30 問作成実施した。

臨床実地試験結果

後述試験前		口述試験後	
30 点	: 2 名	30 点	: 7 名
20~29 点	: 11 名	20~29 点	: 10 名
10~19 点	: 9 名	10~19 点	: 14 名
0~9 点	: 7 名	0~9 点	: 3 名
全体平均	18.0 (60.0%)	全体平均	22.4 (74.7%)

3. 結論

腰痛症テキストを作成しそれを基に講義を行った。外傷性腰痛の知識や病態理解を深めると共に、評価法や神経学的・整形外科的検査法の習熟を目的に行った。口述試験事前試験として穴埋め式筆記試験を行い、穴埋め数 504 問、総点数 1100 点と内容が非常に多いにもかかわらず、平均 999.0 点(90.8%)と高い数値であった。臨床実地試験では口述試験前平均 18.0 点 (60.0%)、口述試験後平均 22.4 点 (74.7%) と口述試験前より口述試験後に高い数値を認めた。

腰痛症は我々柔道整復師の日常診療において頻繁に遭遇する疾患であり、腰痛症の診察法から治療法まで一貫した教科書は存在していない。腰痛症に特化した教材の作成することは有益であると思われる。